

NewsLetter

自治医科大学地域医療オープン・ラボ



Vol.149, Sep, 2019

よし、学位を取ろう！

— 救急搬送患者データをみえる形（論文化）に —

☆推薦文☆

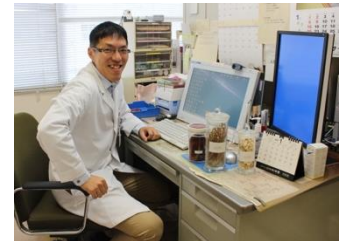
吉永先生、学位取得おめでとうございます。ことある毎にとは、もちろん、飲み会の席でしたが、それを単に飲み会での話には終わらせずに、診療所勤務の時に思い出してもらったのは、吉永先生のリサーチマインドのどこかに引っかかったのだと思います。論文にまとめた研究は、救急搬送患者の大規模なデータを利用したものです。そのデータを利用させてもらえるようになったのも、単なる偶然ではなく、吉永先生の人柄による所も大きいと思います。本業である漢方医としても活躍しており、大規模データを解析できる漢方医という珍しい存在かもしれません。今後の活躍に期待しています。頑張ってください。

自治医科大学医学教育センター 石川鎮清

飯塚病院 漢方診療科 吉永 亮（福岡 27 期卒）

【はじめに】

2013年6月から2018年5月まで自治医大の研究生として研究活動を行い、この度、目標であった学位（論文博士）を取得しましたので、この場で報告させていただきます。



【疫学研究との出会いから研究生へ】

もともと義務年限中からことある毎に、福岡県人会の先輩で今回の研究の指導教授である地域医療学の石川鎮清先生から、「自治医大の研究生となって学位取得を目指してはどうか？」と薦められていました。当時の自分にとって研究や論文などは程遠い世界でしたが、義務年限の最後に勤務した矢部村で石川先生とともに JMS コホート II のエントリーに関わった経験が転機となり、疫学研究に興味を持つようになりました。義務明け後に研究生に登録して、勤務する飯塚病院で研究を行いました。初期研修医時代も過ごした飯塚病院は福岡県の筑豊地域で唯一の救急救命センターがあり救急搬送患者が多いこと、研修医時代の救急外来での学びと経験が、地域医療を行う上で大変有用であったことなどから、救急患者の予後に関する研究をすることに決めました。その中でも、地域医療やプライマリ・ケアでも日常的に測定している血糖値や C-reactive protein (CRP) に着目し、それらの検査データと救急搬送患者の院内予後との関連を調査しました。そこからは倫理委員会、データセットの作成、データ解析、論文作成、査読後の修正、学位審査まで、まさに「千里の道を一步ずつ進む」といった感じでした。幸運なことに疫学研究で有名な九州大学の久山町研究に携わっていた土井康文先生が同じ院内におられ、しかも石川先生と高校の同級生であったこともきっかけとなり、土井先生からもご指導をいただきました（本当に人の繋がりをご縁のありがたみを感じました）。

【論文紹介】

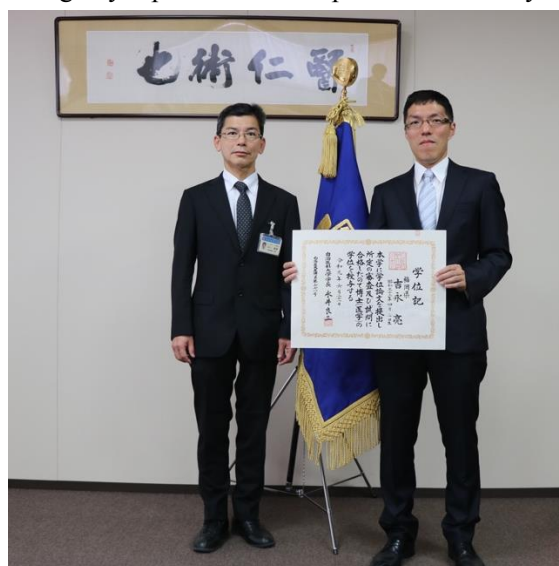
私の論文を簡単に紹介させていただきます。全ての救急搬送患者の来院時の血糖値と院内死亡との関連を調査した研究(1)では、来院時の血糖値と院内死亡率は U-Shape の関連があり、血糖値が低下、増加するに従い院内死亡率が増加しました。特に注目したのが、54-72mg/dl (3-4mmol/L) から院内死亡率は急激に増加したことでした。2017年、International Hypoglycemia Study Group は、血糖値 54mg/dl (3.0mmol/L) 以下を

臨床的に重要な低血糖として定義しました。しかし、私の研究では54-72mg/dl も死亡リスクの高い（致死率20.7%、5.0-6.0mmol/Lと比較して死亡リスク3.9（95%CI 3.0-5.0））、注意すべき低血糖であることがわかりました。次に、救急搬送された心血管病患者の来院時CRP値と院内予後との関連を調べた調査(2)ではCRP値0.3mg/dL未満の群と比較して、0.55mg/dL以上で有意に死亡リスクが増大し、CRP値の増加に従い死亡リスクも増大する傾向がありました。さらに、心血管病患者を死因別にみた場合、心血管病による死亡リスクより心血管病以外の死亡リスクの方がその関連が強く、特にCRP 3.33mg/dL以上では心血管病以外の死亡が37.5%を占めました。入院時診断が心血管病患者であっても、感染症や悪性腫瘍の並存・合併に注意しながら治療を行う必要があることがわかりました。これらの研究から、日常的に活用される血糖値やCRP値の血液検査データから救急搬送患者の生命予後のおおまかな予測が可能であることが示されました。さらに学位審査で審査員の先生方との議論により、本研究で得られた血液検査データによる予後予測が、敗血症の予測指標であるqSOFAスコアを満たさない、予後の悪い患者の見落としの予防にも繋がる可能性があると考えました。

【まとめ】

研究生としての一つ一つのプロセスが日常診療にはない貴重な経験でした。また、自治医大の後輩の先生方に、自治医大卒業生であっても、一般病院での勤務でも、学位取得が可能であるというモデルになればと思います。学位授与式で永井学長から頂いた「医療は時代とともに常に変化しており、これがゴールでなくスタート」という言葉を肝に銘じ、この学位取得を自分の研究者としての第一歩として今後も精進していきたいです。

- (1) Yoshinaga R et al: Plasma Glucose Level as a Predictor of In-Hospital Mortality in Patients at an Emergency Room: A Retrospective Cohort Study. Diabetes care 2019;42:e6-e7.
- (2) Yoshinaga R et al: High-sensitivity C reactive protein as a predictor of in-hospital mortality in patients with cardiovascular disease at an emergency department: a retrospective cohort study. BMJ Open 2017;7:e015112.



地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行] 自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>